

抗原検査正し、知識を

県内薬局「キット」販売開始

新型コロナウイルス感染の有無を調べる医療用の

「抗原検査キット」について、厚生労働省が薬局での市販を解禁。福井県内の薬局でも取り扱いが始まつた。だが、無症状者の確定診断には推奨されず、ウイルス量によっては正しい結果で、感染の早期発見につながる狙いがある。

一方、政府は飲食やイベントの人数制限緩和のために、ワクチン接種の証明や陰性証明、キット活用を組み合わせた「ワクチン・検査パッケージ」の技術実証を通じて、県内では13、14日の「ワンペーパーMR-COV19チエック」で、県がワクチン・検査パッケージの実証実験を実施。陰性や接種の証明がない人向けに、会場で行う抗原検査にキットを

認めた抗原検査キットは、これまで市販されていなかつたが、感染拡大防止の特例的な対応としての間に解禁された。家庭などで自ら確認できるようになると、感染の早期発見につながる狙いがある。

ただ、抗原検査の結果が陰性であっても感染の可能性があり、正しい使用のための知識は不可欠。薬局には販売時に、購入者への適切な説明が求められている。

使用する。

約200人が参加。興味ある食品・衛生課の担当者は△無症状者への確定診断には

推奨しない▽体内のウイルス量が少ないと正しい判定できない可能性がある▽感染していても結果が陰性となる場合（偽陰性）がある」と注意点を説明。「陽性の場合は医療機関の速やかな受診が必要。体調不良者への検査キット販売は、感染対策の面からも避けるべきだ」と呼び掛けた。

福井大医学部附属病院感染制御部の若崎博道教授は、「検査キットで陰性と出てもウイルス量が少ないことは言えると思うが、感染していない」という証明にはならない」と強調。陰性であっても、会話時のマスク着用や手消毒など基本的な感染対策を怠らないよう求められた。

「使い方を誤ると、逆に感染拡大させかねない。店頭で丁寧に説明し、適切な使用を促したい」と話す。

(前田和也)

陰性でもコロナ感染恐れ

県薬剤師会「使い方 説明必要」

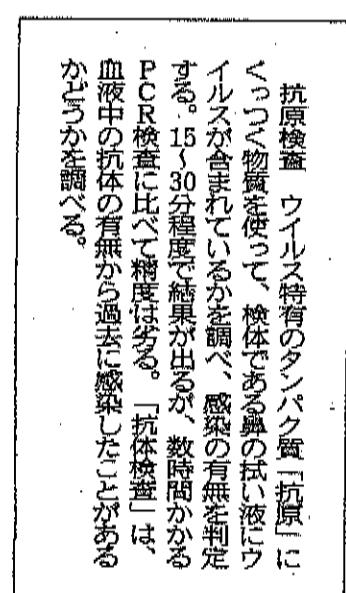
県薬剤師会の角野雅之会長は「使い方を誤ると、逆に感

染拡大させかねない。店頭で丁寧に説明し、適切な使用を促したい」と話す。

抗原検査 ウィルス特有のタンパク質「抗原」に、いつも物質を使って、検体である鼻の拭い液にウイルスが含まれているかを調べ、感染の有無を判定する。15～30分程度で結果が出るが、数時間かかるPCR検査に比べて精度は劣る。「抗体検査」は、血液中の抗体の有無から過去に感染したことがあるかどうかを調べる。



薬局での取り扱いが可能な
なった抗原検査キット(福井県薬剤師会提供)



県薬剤師会は「Jのまび」専門家を招いた緊急研修会を開いた。オンライン会議で開いた。オンライン会議で開いた。

抗原検査 ウィルス特有のタンパク質「抗原」に、いつも物質を使って、検体である鼻の拭い液にウイルスが含まれているかを調べ、感染の有無を判定する。15～30分程度で結果が出るが、数時間かかるPCR検査に比べて精度は劣る。「抗体検査」は、血液中の抗体の有無から過去に感染したことがあるかどうかを調べる。